



平成 30 年度 舞鶴市の予算

舞鶴版・地方創生の実現に向け、まちづくりの重点事項を「多様な連携」と「創意工夫」によって推進

※1億円を「1千円」に例えています。また、()内は実際の市の予算の歳入・歳出の科目等です。

1 『まいづる家』の家計簿

はじめに、平成 30 年度の一般会計の予算の内容を家計に例えながら分かりやすく説明します。

平成 30 年度一般会計の予算約 338 億円を、月収 33 万 8,000 円の「まいづる家」の家計簿に例えています。

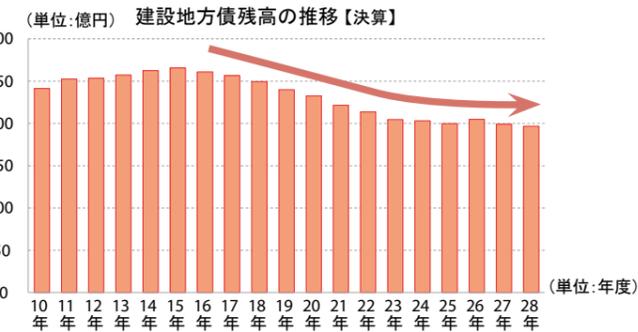
◆今月のまいづる家は、収入が先月より減少する見込みであることから、食費や光熱水費、家の修繕費などを節約しています。

◆また、まいづる家では医療費をはじめ、子どもの教育費や仕送りなどの固定経費が増加しており、家計のやりくりには注意が必要です。



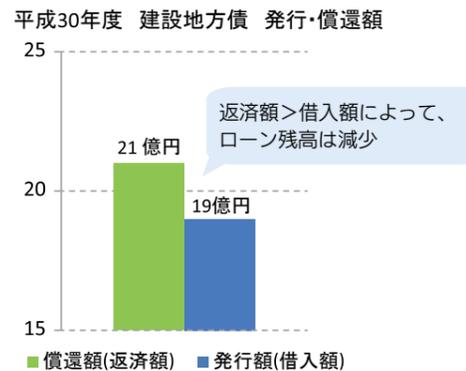
次に、まいづる家のローン(建設地方債の残高)と貯金(基金)の状況について説明します。

公共施設や道路・河川などの整備を行うための借入れを「建設地方債」といい、家庭に例えると家の増改築等の費用を補うローンのことです。ローンを計画的に活用することで、一度に



2 まいづる家の『ローン』について

多額の支出をすることなく、安定的な家計のやり繰りにつながります。また、長い間使用する公共施設などは将来世代にも公平に費用を負担してもらうことができます。



3 まいづる家の『貯金』について

災害など予期せぬ支出や税収等収入の減少、公共施設の整備などに備えた積み立てを「基金」といいます。これは、家計に例えると貯金のことで、まちづくりなど、将来に向けて必要な投資に活用する一方で、残高にも留意しつつ運営を行っており、現在の基金残高は 75 億円となっています。

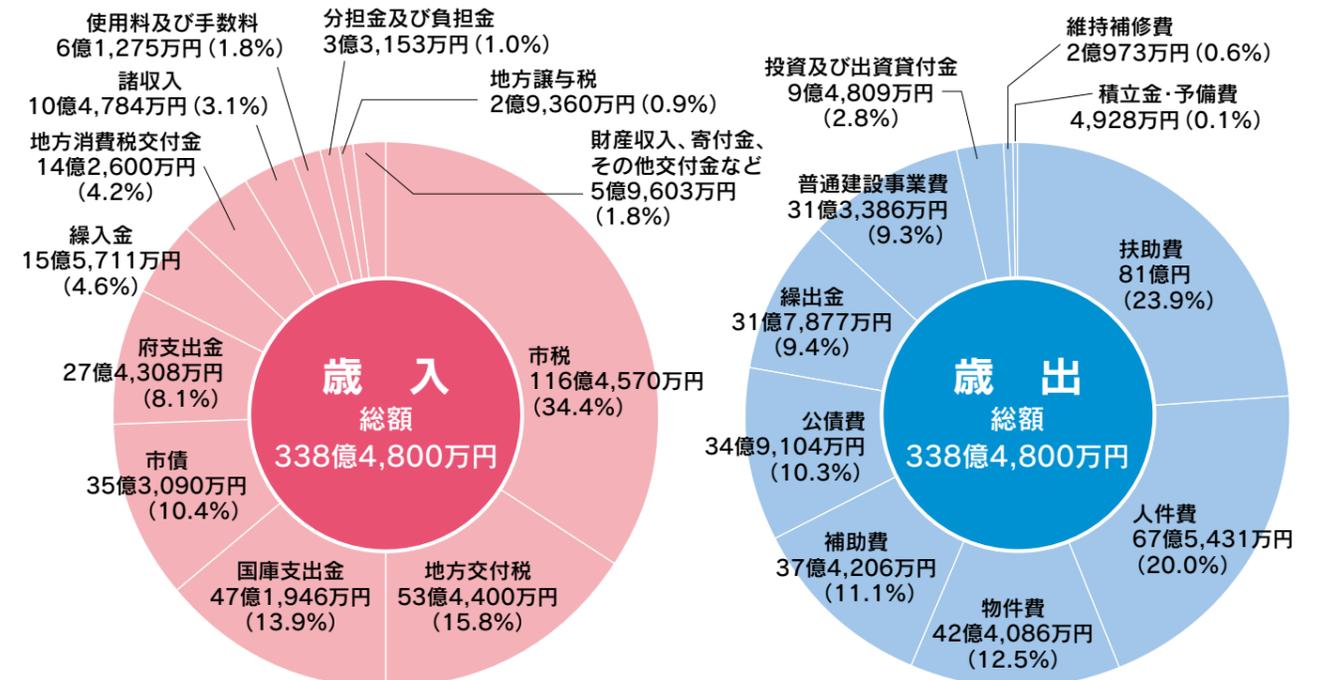
今年度の予算では、昨年度の台風災害への基金活用を考慮し、基金繰入れの抑制に取り組みました。



舞鶴版・地方創生の目標に掲げる(交流人口 300 万人・経済人口 10 万人)都市・舞鶴の実現に向け、平成 30 年度は持続可能なまちづくりの総仕上げの年度と位置づけ、これまでから取り組んできた「心豊かに暮らせるまちづくり」「安心のまちづくり」「活力あるまちづくり」の 3 つの重点事項を「多様な連携」と「創意工夫」で押し進めます。

「平成 30 年度の予算」の歳出は昨年の秋に襲来した台風災害への財政支出に加え、歳入は固定資産税などの市税収入が減少する見通しです。持続可能な財政運営に向け、経常的な経費の削減・既存事業の見直しなどで「歳入の身の丈に合った歳出予算」や市の借金である建設地方債の新規発行額を抑え「将来世代の負担を軽減」また、歳出の抑制や新たな財源を確保することで、市の貯金である「基金の取り崩し額の抑制」を行い、財政規律を働かせた健全財政のための取り組みを進めます。

一方で 3 つの重点事項に関連する事業には積極的に予算を配分し「選択と集中」「分担と連携」に基づいた、めりはりのある予算編成を行いました。



| 一般会計 | 338 億 4,800 万円 | 前年度との比較 △ 7 億 2,285 万円 |
|-------------|----------------|---------------------------|
| 特別会計 | 175 億 9,212 万円 | 前年度との比較 △ 71 億 858 万円 |
| 国民健康保険事業会計 | 82 億 4,351 万円 | △ 20 億 9,051 万円 |
| 貯木事業会計 | 103 万円 | △ 114 万円 |
| 駐車場事業会計 | 5,097 万円 | 321 万円 |
| 介護保険事業会計 | 80 億 6,767 万円 | △ 4 億 8,163 万円 |
| 後期高齢者医療事業会計 | 12 億 2,894 万円 | 715 万円 |
| 公営企業会計 | 115 億 4,277 万円 | 前年度との比較 75 億 6,138 万円 |
| 水道事業会計 | 34 億 8,690 万円 | 5 億 910 万円 |
| 下水道事業会計 | 70 億 2,190 万円 | 70 億 2,190 万円 |
| 病院事業会計 | 10 億 3,397 万円 | 3,038 万円 |

※平成 30 年度から〔国民健康保険事業〕の財政運営が都道府県単位へ移行、さらに、〔簡易水道事業会計〕は水道事業会計に統合、〔下水道事業会計〕は公営企業化しました。

※当初予算の詳細内容は市ホームページでも紹介。